

FAX 通信

2007年10月1日発行 No.01-32

From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

シール概論-別冊 (32)

4. ゴム材料の試験関連の規格類

JIS K 6258:2003「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム-耐液性の求め方」

この規格は、ゴムを各種液体に浸せきし、浸せき前と浸せき後の寸法、質量、体積、表面積及び機械的性質の変化を測定することによって、各種液体による影響（耐液性）を求める方法について規定しています。

なお、浸せき試験については、全面と片面との2種類があります。（一般には、大半は全面浸せき試験が多いと思います）

試験用燃料油、同アルコール添加燃料油、試験用潤滑油（No. 1, No. 2, No. 3 で、No. 1 は低膨潤油、No. 2 は中膨潤油、No. 3 は高膨潤油で、それぞれ ASTM No. 1 油、IRM902 及び IRM903 に相当しています）試験用サービス油を規定しています。

なお、試験温度は、製品使用目的及び試験目的に応じることとなっています。

通常では、試験油の制限温度や対象ゴム材料の耐熱性から選択することになります。

シール用ゴムにとっては、この耐液性による影響が大きいため、最も重要な試験です。新規の流体を採用する場合には必ず実施ください。

JIS K 6259:2004「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム-耐オゾン性の求め方」

この規格は、静的オゾン劣化試験及び動的オゾン劣化試験によるゴムの耐オゾン性の求め方について規定しています。

静的オゾン性劣化試験とは、人工的に発生させた一定濃度のオゾンを含む空气中に、静的な引張ひずみを与えた試験片を静的に暴露した時の、き裂の状況、き裂発生までの時間又はき裂を発生させない最大引張ひずみを評価する試験を言います。

一般的な試験条件では、オゾン濃度は、

500±50ppb (50±5pphm) で、試験温度は 40±2°C としています。

動的オゾン劣化試験は、動的な引張ひずみを与えて行う試験です。

き裂の評価は、き裂の状態を観察して、この規格の附属書に表示されている内容と対比させてランク付けする方法が取られています。また観察により、き裂時間を測定します。



B-4

上図はB（き裂多数のランクで、き裂が大きいもの1mm以上3mm未満）を示します（参考：同規格から）

お分かりのように同試験片は左右方向に引張ひずみが加えられていますので、き裂はその応力とは垂直方向に発生しています。（続く）

「テスニット」ノンアスベストジョイントシート 弊社は「DONIT TESNIT」社のノンアスベストジョイントを取扱っています。

主製品についての紹介

BA-R: アラミド繊維+NBR/SBR に補強金網入です。

特徴：重荷重用

用途：自動車、薬品、造船

標準シートサイズ

大きさ： 1500×1500mm

厚さ： 0.5, 0.8, 1.0, 1.5, 2.0, 3.0mm

カタログや技術資料は、ご要求がございましたら下記にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通 2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX:078-252-1158

FAX 通信の記事についてのご意見や質問がございましたら下記の担当者に連絡ください。 kenemoto@suite.plala.or.jp

(担当：根本)